

平成 30 年度 第 8 回 理事懇談会 抄録

日 時 : 平成 31 年 3 月 3 日 (日) 11:30 ~ 12:30
場 所 : 田町カンファレンスルーム
出 席 : 理 事 : 半田、内山、森本
 網本、伊藤、梶村、黒澤、白石、大工谷、高橋 (哲)、高橋 (仁)、
 田中、谷口、知脇、中川、中前、藤澤、松井、山根
 監 事 : 太田、長澤、辺土名

欠席者 理 事 : 齊藤、植松、吉井
 監 事 : なし

I. 協議事項

(全 2 題)

1. 第 55 回日本理学療法学会研修大会の企画案について (準備委員会 河野、高橋)

第 55 回日本理学療法学会研修大会の企画案および予算案が提出され協議がなされた。今回の意見を受けて再度検討した案が次回以降の理事会へ提出され、審議がなされることとなった。

<企画の骨子>

- ・ 臨床力を高め目標達成に向けて成果を出すための臨床的 (実践的) な研修企画
- ・ 大会事前企画として会員全体を対象とした WEB 事前学習制を導入し、知識の補完を行うことで、大会当日は座学ではなく実技・実習に重きを置いた内容とする
- ・ 会場ごとに一日を通しての企画テーマを設定し、社会への発信を狙った切り口とする
- ・ 若い世代の参加を促すために、参加者に負担の少ない収支構造を目指す

<主な意見>

- SPDCA と EPDCA の文言統一は必要ではないか。
- 予備費は含まれているのか。
- 働くということをテーマにするのであれば、太陽の家や街並み等を見学するオプションツアーも検討してはどうか。
- 企画の趣旨で履修モデルを提示しておくとは参加者にとっては参考になるのでよい。
- 「盗む」ということ表現は適切ではない。変更すべきだ。
- 地域包括ケアで大分モデルが取り上げられているので、それを伝達するようなプログラムを検討されてはどうか。
- 伝達講習 (参加者が士会に展開する) できるような方法を検討していただきたい。
- テキストについて、WEB ダウンロードするのか、製本するのかを検討している。

2. 新生涯学習制度について

半田会長

2 月の理事懇談会以降、登録理学療法士までの部分（前期研修・後期研修）と認定理学療法士制度の部分について、委員会にて再度検討がなされた。今回、この委員会案について協議がなされた。今回出された意見について委員会で再度検討し、次回の理事会にて審議することとなった。

〈主な意見〉

- 移行処置については、現在検討中である。経験年数で自動的に移行した場合、質の担保が図れないのではないかと。
- 臨床見学施設については、現在も新プロで行われているので、その運用で実施すればよいと考えている。問題はどのように実地研修実施可否をシステム側に登録させるのかによる。
- どのくらい士会で業務負担・費用負担があるのかを示さなくてはいけないだろう。
- 一人職場、二人職場が半数程度である実態があるので、現実的な予測を踏まえ検討していただきたい。
- 単位の管理は協会が一括して行うのか。システムで全ての問題が解消されるのか。システム側が検討した運用を実施できるのか。
- 試験を実施しない場合の質の担保をどこで示すのか。
- 都道府県士会の運用を考え、提案の内容で試験運用してみたいか。そして具体的な提案をされたほうがよい。（事務局内の業務もシミュレーションすべき）
- 組織運営協議会では、士会にお願いしたいこと案を提示していただきたい。
- 資料を早く提示し、士会内で議論していただく時間も用意していただきたい。そして、士会からの意見に対しては FAQ を作成した方がよい。